

栄化とは何か

ロマ 8：18～27

イントロダクション

(1) 聖書が教える救いとは

①義認（過去形の救い。罪責からの解放）

* 福音の3つの要素

* これに別の要素を加えることは、福音を異質なものにすることである。

②聖化（現在進行形の救い。罪の力からの解放）

③栄化（未来形の救い。聖化の完成）

(2) アウトライン

I. 被造物のうめき

II. 神の子たちのうめき

III. 御霊のうめき

このメッセージは、栄化の本質について学ぶためのものである。

I. 被造物のうめき（18～22 節）

1. 現状と将来の比較

Rom 8:18 今の時のいろいろの苦しみは、将来私たちに啓示されようとしている栄光に比べれば、取るに足りないものと私は考えます。

(1) パウロは、クリスチャン生活における苦難を否定していない。

① 「いろいろの苦しみ」（複数形）

② 苦難は不信仰のしるしでも、神から見放されていることのしるしでもない。

(2) 現在の苦難と将来私たちに啓示されようとしている栄光の比較

① 栄光があまりにも素晴らしいので、比較する価値すらない。

2. 被造物のうめきの原因

Rom 8:19 被造物も、切実な思いで神の子どもたちの現れを待ち望んでいるのです。

Rom 8:20 それは、被造物が虚無に服したのが自分の意志ではなく、服従させた方によるのであって、望みがあるからです。

(1) 被造物に責任はない。

① 被造物の擬人化はヘブル的手法である。

② 自分の意志で虚無に服したのではない。

- ③服従させた方がおられる。
- ④だから希望がある。

(3) 責任はアダムにある。

- ①被造物は、神の子どもたちの現れを待ち望んでいる。
- ②アダムの罪による呪いが栄光に変えられることを待ち望んでいる。

3. 被造物のうめきの解決

Rom 8:21 被造物自体も、滅びの束縛から解放され、神の子どもたちの栄光の自由の中に入れられます。

Rom 8:22 私たちは、被造物全体が今に至るまで、ともいうめきともに産みの苦しみをしていることを知っています。

(1) キリストの再臨との関係

- ①復活の体を持った神の子たちが出現する。
- ②これは栄光の体である。栄化の成就である。
- ③地上に千年王国が成就する。
- ④エデンの園の状態が回復するということである。

(2) アダムの墮落以来、今に至るまで、自然界は崩壊しつつある。

- ①「ともに」とは、私たちとともに、という意味である。
- ②「産みの苦しみ」

*意味のない苦しみではない。

*新しい世界が現れるための苦しみである。

4. それでは、私たちはいかに生きるべきか。

(1) 終末的視点で生きる。

- ①地上での生活は一時的なものである。
- ②質的に異なった世界が実現する。
- ③富であれ苦難であれ、地上のものに目を注ぐならそれによって束縛される。
- ④上のものに目を注ぐ生き方をする。

II. 神の子たちのうめき (8:23~25)

1. 心の中のうめき

Rom 8:23 そればかりでなく、御霊の初穂をいただいている私たち自身も、心の中でうめきながら、子にさせていただくこと、すなわち、私たちのからだの贖われることを待ち望んでいます。

Rom 8:24 私たちは、この望みによって救われているのです。目に見える望みは、望みではありません。だれでも目で見ていることを、どうしてさらに望むでしょう。

Rom 8:25 もしまだ見ていないものを望んでいるのなら、私たちは、忍耐をもって熱心に待ちます。

(1) 被造物だけでなく私たちも、うめいている。

- ①被造物は、新しい世界を産むための「産みの苦しみ」を通過している。
- ②その「うめき」は、意味あるものである。
- ③私たちもうめきも、被造物のそれと同じように言葉にならない。

(2) 「御霊の初穂をいただいている」

- ①信じた瞬間に、神の恵みの初穂として御霊は与えられた。
- ②御霊は、保証（手付金）である。
- ③終末的保証である。

(3) うめきの原因

(1) 「すでに」（得ている）と「いまだ」（まだ得ていない）の間における葛藤

- ①御霊の初穂は、すでに得ている。
- ②完成は、いまだ成っていない。

(4) 救いの完成を求めて、うめいている。

- ①「子にさせていただくこと」
 - *すでに神の子になっているが、完成していない。
- ②「私たちのからだの贖われること」
 - *復活のからだを持つこと
 - *私たちが復活のからだを持つことと、新世界が出現することが連動。
- ③. 2コリ5:4

2Co 5:4 確かにこの幕屋の中にいる間は、私たちは重荷を負って、うめいています。それは、この幕屋を脱ぎたいと思うからでなく、かえって天からの住まいを着たいからです。そのことによって、死ぬべきものがいのちにのまれてしまうためにです。

Ⅲ. 御霊のうめき (26～27 節)

1. 26 節

Rom 8:26 御霊も同じようにして、弱い私たちを助けてくださいます。私たちは、どのように祈ったらよいかわからないのですが、御霊ご自身が、言いようもない深いうめきによって、私たちのためにとりなしてください。

(1) 私たちは弱い。

- ①肉体的、道徳的に弱い。
- ②理解力において弱い。

(2) 御霊は助けてくださる。

- ①「同じようにして」とは、私たちと同じように御霊もうめいているということ。
- ②御霊のうめきは、私たちのための執りなしの祈りである。

(3) 「言いようもない深いうめき」

- ①「言葉に表せないうめき」(新共同訳)
- ②これは異言ではない。
- ③御霊の祈りには、主イエスの祈りと同様に、深い感情が伴っている。

2. 27 節

Rom 8:27 人間の心を探り窮める方は、御霊の思いが何かをよく知っておられます。なぜなら、御霊は、神のみこころに従って、聖徒のためにとりなしをしてくださるからです。

(1) 「人間の心を探り窮める方」

- ①父なる神は、人間の心に何があるかをご存じである。
- ②父なる神は、御霊の思いが何かをよく知っておられる。

(2) 祈りの神秘

- ①私たちの祈りは、不十分である。
- ②御霊が私たちの祈りの欠点を修正し、不足を補ってくださる。
- ③私たちのうめき(23節)が、御霊のうめき(26節)となる。
- ④御霊のとりなしは父なる神の御心に従っている。
- ⑤それゆえ、私たちの祈りは神に聞かれている。

結論

1. ロマ8:28は、栄化の保証である。

Rom 8:28 神を愛する人々、すなわち、神のご計画に従って召された人々のためには、神がすべてのことを働かせて益としてくださることを、私たちは知っています。